

シグマ研究委員会 JENDL 積分評価 W.G. 1978年度第4回会合議事録

日 時 1978年10月20日 13:30～17:30

場 所 原研東京本部 第31会議室

出席者 菊池, 高野(原研), 宝珠山, 関(MAPI), 亀井(NAIG),
大竹, 佐々木(誠)(PNC), 山本(FBEO), 松延(住原工)

配布資料: T. Kamei, T. Hojuyama, M. Sasaki, Y. Seki, A. Zukeran,
Y. Kikuchi; "Precise benchmark tests of JENDL-1",
Progress report 投稿原稿

議 事

1. 報告書作成

a) Aix-en-Provence 会議

- 国際ベンチマーク炉心 FCA炉心のベンチマークテストを中心に書き, 詳細解析も加える。

b) 最終報告書

- Aix-en-Provence 会議へのレポートにさらに詳しいデータを加えて, 来年度中にJAERI-reportとして刊行する。

c) JENDL-1 炉定数

- 現在, 長谷川氏がフランスでまとめており, 今年度中にJAERI-M-reportとして刊行予定

d) 詳細解析

- PNCへのNAIG, MAPIの報告書を多少手直ししてJAERI-M-reportとして今年度中に刊行する。原稿は1月中旬までに提出する。

2. 標準炉定数

- PNCは, この問題の検討を, f-tableの作成能力を考慮して原研・原子炉システム研に委託した。

- 原研での検討 高野氏
 - σ_0 を 20 点とり、3 次函数の spline fit を行なっている。

- NAIG での検討 亀井氏

- COSMOS - 2 システム

$$\circ \quad f = f_{\max} \left\{ \frac{\rho + \sqrt{\frac{\lambda + \sigma_0}{\lambda + \eta + \sigma_0}}}{1 + \rho} \right\}$$

$\rho = 0$ でフィットした結果 hyperbolic tangent より精度が良い。

- 今後亀井・高野両氏で検討する。MAPI も随時参加する。
 - 多数点の σ_0 と函数表示の損得
 - node point からの内挿の誤差を node point を変えて check する。
- JENDL - 2 の炉定数
 - 今年度中に TIMS と PROF - GROUCH - G - II を結合するシステムを、核データセンターと原子炉システム研で協力して作成する。